

第1号議案 令和5年度事業報告に関する件(案)

【はじめに】

令和5年度は戦争、地震等の自然災害、円安等により、エネルギーや食料価格が上昇する経済事情の中で、ナショナルトラスト手法によるヤイロチョウの森の保全調査・普及啓発・持続可能な活用について可能な限り取り組みました。

当協会は、1994年2月26日に市民団体「高知県生態系保護協会」として高知市で設立してから本年で「設立30周年」を迎えたことから、設立30周年記念して『森のしづく文庫』を創刊しました。30年目を迎えたナショナルトラスト団体として、今後も取得管理している保護区の状況や、活動に参加した人々の想いを未来に引き継いでいくツールとして活用したいと考えています。

具体的には、下記のような活動を行いました。

【トラストの森の拡充と調査・保全・パトロール・普及活動】

- 1, 大藤風力発電計画については、当協会などの要望書の提出や申し入れの結果、令和4年5月に計画の撤回が発表されましたが、土佐清水市今の山では現在も開発計画が止まっていません。
- 2, 令和3年度から侵略的外来種・サンジャクによる在来種の被害実態調査のため、学術捕獲実験等を継続し、6月には王子ホールディングス株式会社のご支援により、日本野鳥の会大阪支部にご協力いただき、森の番小屋周辺でサンジャクの営巣地調査を実施しました。
- 3, 調査結果に基づいて、11月4日に我孫子市で開催されたジャパンバードフェスティバル、11月19日に大阪自然史博物館で開催された自然史フェスティバル等で講演会等を開催しました。
- 4, ヤイロチョウの森の生物多様性を保全するため、令和3・4年度に続いて、令和5年度も高知県自然共生課の補助をいただき、2月に四万十ヤイロチョウの森ネイチャーセンターにおいて、専門家の指導によりGPS装着などのフィールドワークや、東京や台湾(通訳が代行)からも講師を招聘し、zoom参加方式でシンポジウムを実施しました。

【自然林再生とワンダーランドの森整備の取り組み】

- 1, ワンダーランドの森の周辺に、新たにブッポウソウの巣箱を設置しました。
- 2, 王子ホールディングスの森に隣接して設置したトレッキングコース等を、山登りグループに貸し出しました。
- 3, 奥四万十地域で20年以上行われてきたブッポウソウの里づくりを応援し、希望者を対象にネイチャーセンターから車による観察会を行ったほか、巣箱づくりや巣箱かけのイベントも行いました。

【企業・行政・他団体と協力した森や水辺の保全活動&PR活動】

- 1, 四万十町に要望していた「ヤイロチョウのさえずる町づくり条例」は実現できなかったものの、故門脇恒美さんが取り組んできたブッポウソウの里づくりについて、7月と12月に、高知県森と緑の会の補助金を得てバスツアーや出前巣箱掛け等を実施しました。

- 2, 山崎技研などの協賛を得て、令和5年度も「ヤイロチョウの森を未来に！ぬりえ・絵画・作文コンクール」参加者を募集しましたが、応募者が少なかったため表彰等は中止しました。
- 3, 8月15日には、当協会の設立発起人の故青柳裕介氏の23回忌墓参を行いました。

【出版活動等の強化・拡充】

- 1, 会報誌「ニュースレター」は、6月に2023夏No.144号、9月に秋～冬145号、2024年春146号を発行しました。
- 2, 8月16日ヤイロチョウの日イベントとして、ネイチャーセンターで『森のしずく文庫出版記念座談会』を行いました。
- 3, 山崎技研株式会社などの協力を得て、10月20日付で『森のしずく文庫』2000部を発行しました。

【事務局&ネイチャーセンター運営】

- 1, 来訪者数が減る冬季間の10月～3月末まで、ネイチャーセンターの休館日を増やしました。
- 2, 2022年度に退職された事務局員の引継ぎを担当するスタッフがなかなか固定しなかった反面、財政支出の圧縮のため、事務局の収支内容を見直した結果、会計事務所への委託を取りやめるなど、財政支出の見直しが進みました。